

# 地域公共交通のあり方について

平成30年6月1日(金)

交野市 都市計画部 都市計画課

### 1 橋本市の現状

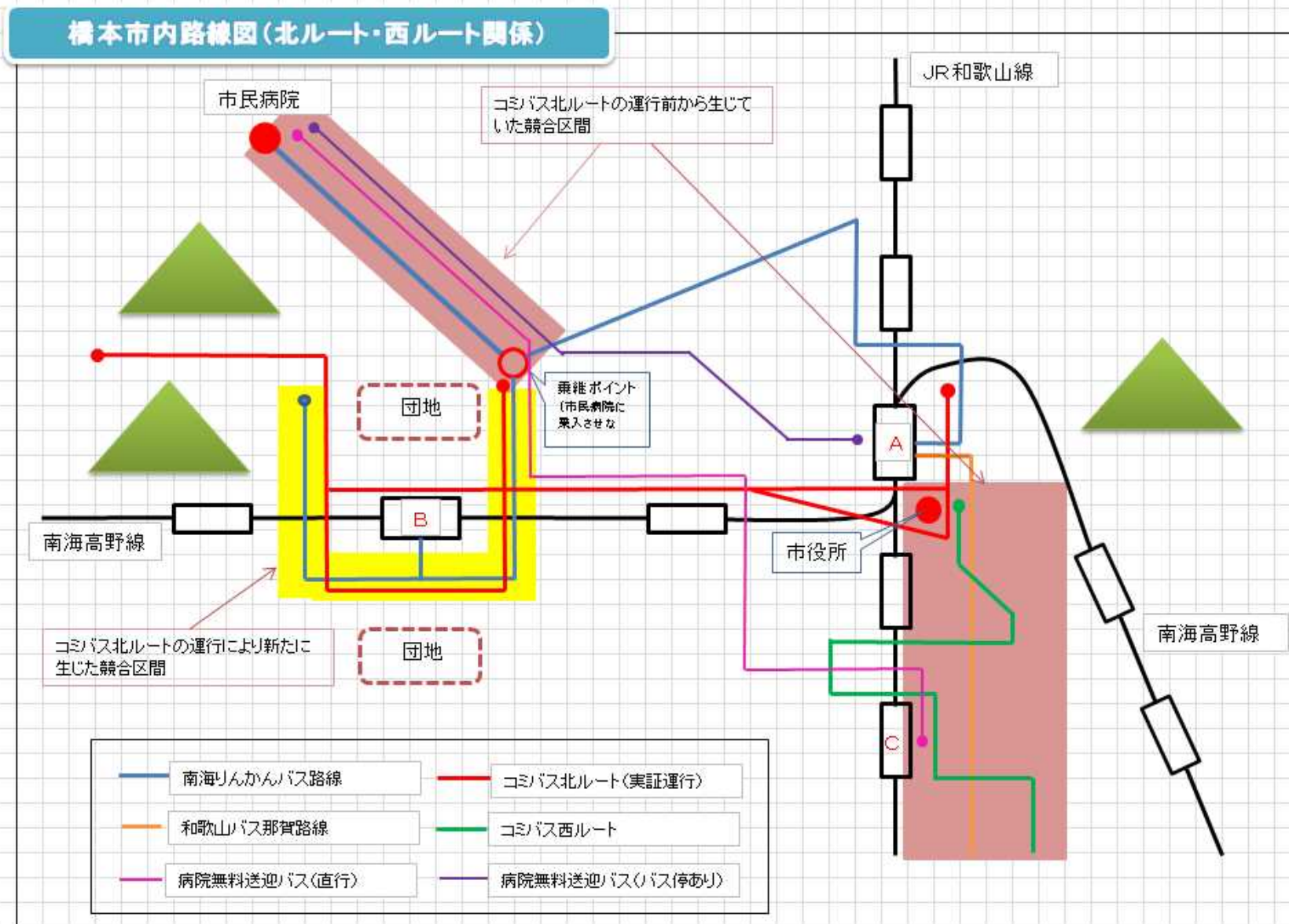
- ・面積 : 130km<sup>2</sup>
- ・人口 : 64,000人
- ・主要産業 : 果物・繊維工業
- ・高齢化率 : 約30%

### 2 公共交通の状況

- 鉄道
    - JR西日本和歌山線 5駅
    - 南海高野線 6駅
  - 路線バス
    - 南海りんかんバス 6路線
    - 和歌山バス那賀 1路線
  - 橋本市コミュニティバス 4路線  
(中ルート、東ルート、西ルート)  
(北ルート(平成26年度実証運行))
- ※市民病院無料送迎バス 2路線  
(橋本駅～市民病院)  
(高野口公民館～市民病院)

### 3 市内公共交通の経緯

- H16.11橋本市民病院移転
- H17.4市民病院無料送迎バス(橋本駅)運行開始  
(11往復/日、利用者数約130人/日)
- H18.2～橋本市コミュニティバス2ルート運行開始
- H18.11～橋本市コミュニティバス西ルート運行開始(4便)
- H19.10～市民病院無料送迎バス(高野口公民館)運行開始(7往復/日、利用者数約25人/日)
- H21.10 土曜日運行開始
- H23.12～75歳以上無料化・西ルート増便4→6便
- H29.3末 B社橋本線廃止
- H28.4.1 75歳以上無料化廃止



●コミバス、病院無料送迎バス、民間路線バスとの競合事例（橋本市コミバス（西ルート））

4-1 経緯

○H18.11の旧高野口町との合併により、和歌山バス那賀の橋本線（路線図：茶線）に対してジグザグに併走する形のコミバス西ルート（路線図：緑線）を新設し、橋本市民病院まで乗り入れ。（橋本線と競合）

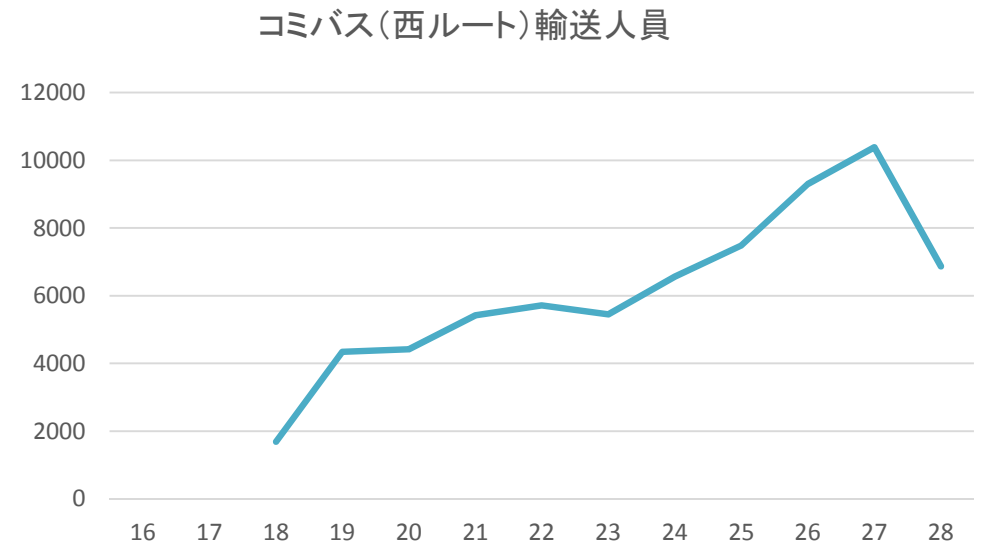
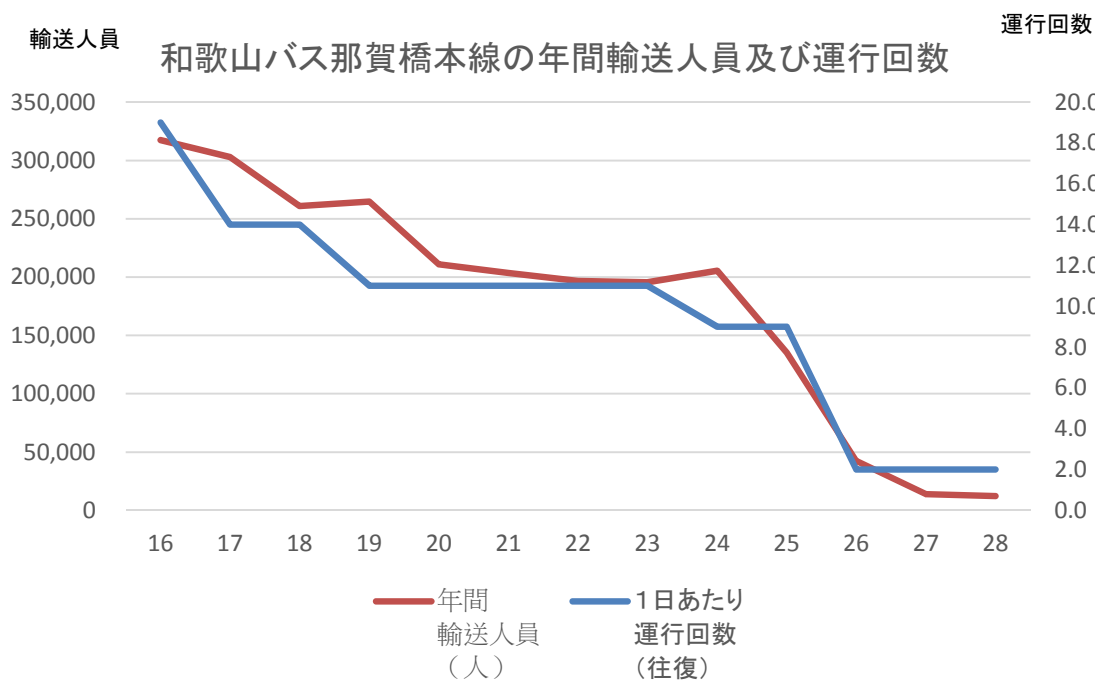
○H19.10から高野口地区公民館から総務省補助による市民病院無料送迎バス（路線図：ピンク線）（自家用マイクロバス1台、7往復／日、約25人／日、橋本駅～市民病院間（路線図：紫線）はH17.4から11往復／日運行）を運行。（実質和歌山バス那賀橋本線、コミバス西ルートと競合）

○H23.12から75歳以上無料化、コミバス西ルート増便（4→6便）により、さらに和歌山バス那賀橋本線、コミバス西ルートとの競合関係が強まる。

○和歌山バス那賀橋本線は、平成26年10月まで段階的に2往復／日に減便。

○コミバス75歳以上無料化も廃止。（平成28年4月～有料200円）

○H29.3末に和歌山バス那賀橋本線廃止。コミバス75歳以上無料化も廃止。（平成28年4月～有料200円）



## ●コミバスと民間路線バスとの競合事例（橋本市コミバス（北ルート））

### 4-2 経緯

- 住民要望により南海りんかんバスの主要路線と一部競合するコミバス路線の運行を平成26年4月1日より開始。（路線図：赤線）
- 地域公共交通会議では交通事業者から強い反対があったが、1年間実証運行し検証することとなった。ただし、駅への乗り入れ、病院への接続は制限された。
- コミバスの運賃は200円定額、敬老パス制度（75歳以上無料）により路線バスの対キロ区間運賃（170円）と格差。

### 5 実証実験時の現状と課題

- コミバス実証運行開始後半年間の競合区間の1日あたりの平均利用者数
  - ・コミバス北ルート(路線図:赤線) 23.6人 ・南海りんかんバス(路線図:青線) ▲21.7人 （運行前）109.1人 （運行後）87.4人
- コミバス利用者数等と1人1乗車あたりの負担額の推移： 利用者数は増加傾向にあるが料金施策により採算性悪化（敬老パス割合43%）
- 競合路線は南海りんかんバスの収入の柱となる路線であったため、今後、赤字路線への損失が補填できなくなり、路線の縮小、廃止が進行する可能性があった。（→市はさらにコミバスを走らさなければならなくなる）

### 6 その後の動き

○平成27年2月の会議では、北ルート競合検証のために市が独自調査を行うこと、市内全域におけるコミバスルート等の見直しの検討を始めること 等が合意された。

○平成27年6月に市がとりまとめた調査で、市はコミバスとの競合関係を認めたとえ、路線競合部分の減収補填、敬老パス事業の見直し、根本的な競合回避並びに市財政負担軽減のため、コミバス路線見直しやデマンド交通導入など市内交通網の見直しを検討する方針が合意された。

○市は財政事情から「敬老パス事業を27年度で廃止」することを急遽打ち出し、27年9月の地交会議ですべての市民代表委員の猛反対があったが、一部の市民委員から「バスがなくなったら困るので有料になっても残してほしい。」という意見もあり、今後、市民に対し丁寧な説明をしていくことを条件に認められた。（28年4月～有料200円）

○敬老パス事業を廃止した結果、南海りんかんバス路線の利用者数が増加した。

